楽寿園万葉の森

万葉植物歌・略解

三島市

正誤表

	誤	↓	正
P20	ていかかづら	→	ていかかずら
P37	(訳) おおせい	→	おおぜい
P42	宮任	→	宮仕
P52	くそかつら	→	くそかづら
P59	しもつげの	→	しもつけの
P68	考譲天皇	→	考謙天皇
P70	末だ	→	未だ
P92	大玉の	→	大王の
P95	(訳) 夜を	→	衣を
P98	播磨	→	播磨
P119	ねつこぐさ	→	ねつこぐさ(おきなぐさ)
P122	するし科	→	うるし科
P146	おほえる	→	おほへる
あとがき	一行目 「源氏物語の植」	→	「源氏物語の植物」

まえがき

昭和四十九年、三島市立公園内に多くの人々の御協力により「万葉の森」が建設されました。森の広さは約四千平方米（一二三〇坪）で、当地で栽植可能な万葉植物（約一六〇種）すべてをそろえ、万葉植物以外にも標示をして植物園としても、御覧いただけるように考えております。

「万葉集」は日本の美しい自然を背景にして生まれた一大歌集で、日本民族の文化遺産として大切にされています。自然を形づくっているのは草や木といえますし、万葉人はその自然を愛し、草や木に寄せまた花に寄せて、その心を自然に移しているのです。万葉の植物は日本民族がじかに日本の植物を知り、はじめてそれを明示したところに特色があります。万葉人がこれらの植物をどう観察し、人々の生活・文化・民族そして、感情とどう結ばれていたかを万葉集が教えてくれます。これら万葉の植物は、古典の植物として私たちの心にいつまでもつながっていくことと思い、また保存の意味において「万葉の森」建設の構想が打ち出され、数年の歳月の後、完成しました。

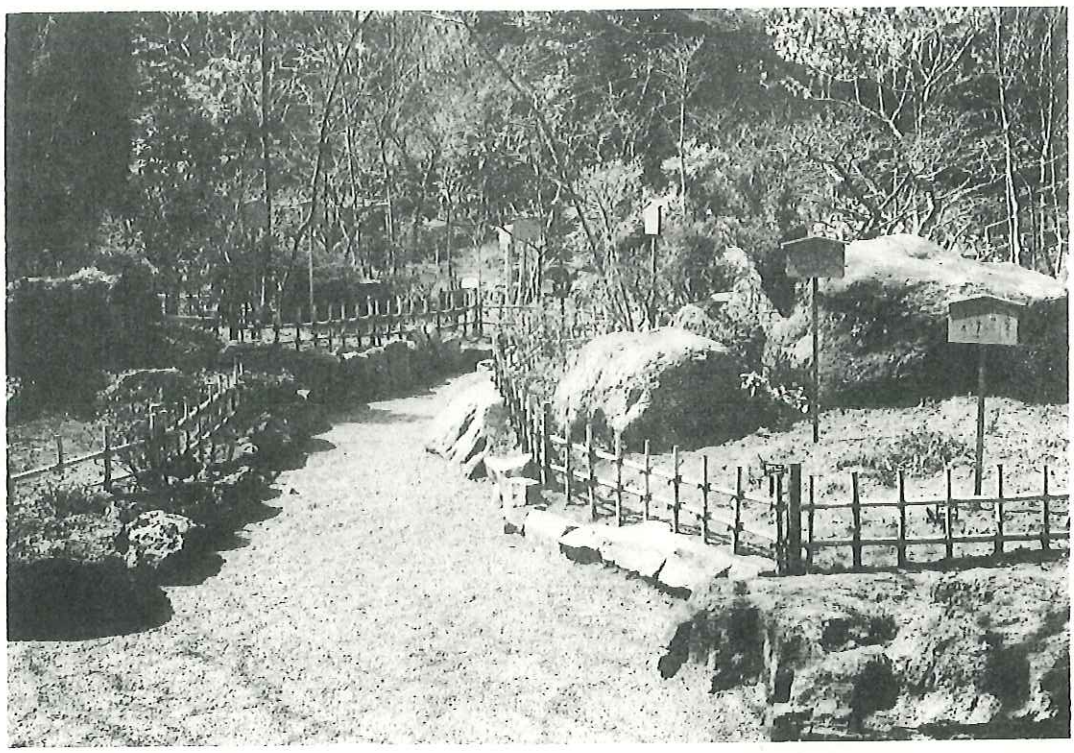
そこでこの万葉植物を来園者に広く紹介するうえで、教育的にも意義のある『万葉植物歌・略解』を発刊することにしました。万葉集全二十巻・歌数四五一六首のうち、約三分の一にあたる一五四八首は植物を題材とした歌だといわれています。本書はその中より「万葉の森」に採集されている植物に関係する歌・一六五首を選び、それに簡単な解釈と植物の説明を盛り込んだものです。なお例歌のよみと解釈は、三島市教育長、吉川静雄氏にお願いし、植物の万葉呼名及び例歌、詞書等のかなづかいは歴史かなづかいに、和名と例歌、詞書等のよみがなは現代かなづかいにしました。また植物名の順序は「五十音順」とし、現代名をその下にかっこ書きにしておきました。新旧のかなづかい、植物の科名（異説などもある）産地等、検討する余地もあると思いますが、もとより専門的な学術書とは異なりますので御了承願います。

そして万葉集というこの古典に残された植物を、多くの人々に認識していただいて、我々の心の中に生かしていくうえで、本書が少しでもお役にたてば幸いです。

昭和五十年三月十三日

三島市公園課

万葉の森



やどりぎ